

ノ名目ハ、始テ節用集南都林ニ載ルト雖モ、重複及奇僻ノ名アリテ、信ズルニ足ラズ、新井白石宗二著ニ載ルト雖モ、重複及奇僻ノ名アリテ、信ズルニ足ラズ、新井白石氏五十四郡考ノ著アリト雖モ、訛謬少カラズ、其新田今併賀美、小田併三鹿、終ニ五十四郡ノ地ヲ的稱スル能ハズ、繼テ之ヲ論ズル者、大抵節用集ノ名目ニ泥ミ、一モ明確ノ說ヲ得ル者ナシ、予既ニ文治中五十郡アル事ヲ歷叙シテ、尙四郡ヲ闕ケリ、因テ現今存スル所ノ石川、田村、檜葉三郡ヲ加ヘテ五十三郡ヲ得タリ、石川郡ハ結城古文書ニ出ヅ、高野郡内伊香手澤兩郷爲石川也、仍執達如件、延元四年八月廿一、郡知行分替可被管領之由仰候越後權守秀伸、結城大藏大輔殿、田村檜葉二郡ハ未ダ古書ニ出デシモノヲ見ズト雖モ、田村郡ハ田村氏ノ據ル所ニシテ、猶石川氏ノ石川郡ニ於ケルガ如シ、蓋シ鎌倉南北朝ノ際ニ、郡數ニ列セシモノナラン、檜葉郡ハ磐城ノ分郡ニシテ、岩城氏ノ領スル所ナリ、磐城ヲ分置セシ前後ニ之ヲ置キシナルベシ、岩城氏家譜ニ海道小太郎成衡ハ、藤原清衡ノ女婿トナリテ岩城郡ヲ領シ、男子五人アリ、各一郡ヲ分領ス、長子檜葉太郎隆祐、二男岩城二郎隆衡、三男岩城三郎隆久、四男標葉四郎隆義、五男行方五郎隆行トアレバ、此時既ニ分郡セシナリ、又南部舊記ニ、古海上郡ハ今ノ北郡ノ地ト見エタレバ、蓋糠部郡ヲ割キシモノナラン、此一郡ヲ加ヘテ、恰モ五十四郡ノ數ニ合セリ、節用集ノ舉グル所ノ名目、古書ニ出ヅル者ヲ捨テ、却テ奇僻ニシテ讀ミ難キモノヲ載セ、大名門、郡徒ニ郡數ニ充ツルノミ、其杜撰殊ニ甚シ、今一切之ヲ採用セズ、舊記ニ據リテ現今ノ郡數ノ沿革ヲ考ヘ、五十四郡ヲ考定シ、悉ク其分界ヲ得タリ、以テ古說ノ紛紜ヲ糾正スベキナリ、

〔新撰陸奥風土記一〕昔有て今なき郡

丹取 神龜五年、丹取軍團を改めて、玉造軍團とす、 色麻 今賀美郡の中四竈村と云是也
 新田 今栗原郡佐沼の中新田村と云有、是にや、 長岡 今栗原郡に長岡有、是なるべし、
 高野 和名抄今田村郡といふ 阿曾沼 節用集 比内 比一作肥 今南部の二戸の地也と